

# うちの家はログハウス

情 59 持田 信治



うちの家はログハウスです。ログハウスの暮らしは楽しいものです。特に冬は薪ストーブで色々楽しめます。

薪ストーブはガラス越しに炎が見え、いくら見ても飽きませんし、焼き芋や、薪ストーブ料理もできます。

ログハウスには基本的には角ログと丸太ログがあります。うちの家は角ログを21段積み上げたファイナカットログで、ログの上部に梁をかけて屋根を載せた構造になっています。写真右側の大屋根側は2重のログ壁による耐圧壁となっています。角ログは厚さ110mmで高さ180mmのログです。角ログは別名マシンカットロ

グと言い、丸太ログはハンドカットログと呼ばれます。ハンドカットログは丸太を積み上げた後にチェーンソーで開口部を開けて、また解体して運ぶという豪快な造りなので、組み立てた後に木が乾燥すると、バキバキと割れるため、寝ている時に割れるとビックリするそうです。一方、



リフォーム後の家

角ログはラミネートログと呼ばれる構造で一度、丸太の真ん中をスパッと切って、木の表側同士を貼り合わせて、カットしたものです。ラミネートログは乾燥処理しているため、割れでも、時々はピシッと音がします。テレビを見ていると、時々、ピシッと2階で音がして家もテレビを見ているかのようにです。多分、季節の湿度変化により木の水分量が変わるからだと思います。ラミネートログも乾燥して少しずつ縮むので、何本かある通しボルトを少しずつ、縮めていきます。通しボルトはログ壁の上から下まで通してあり、ログを固定しています。今まで、何cmかは通しボルトを縮めたと思います。

ログハウスのメーカーは色々あると思いますが、うちの家はファイナカットログです。現在のブランド名は「BEES」となっています。BEESのファイナカットログはフィンランドで製作されるログハウスキットで、キット価格と材工一式費用が別表示になっています。

ログハウスイューザーの中には自分で組み立てる人もいますが、

フローリング板を切って釘打ちするのはとてもない作業量です。フローリング板は幅が120mm、厚さが19mmの無垢材で、家の床と壁と天井は全て釘のみで張られており、完全な大工仕事で素晴らしい出来です。床と壁と天井は全て無垢材のフローリング板が張られており、接着材は一切使っていないので、ホルムアルデヒドは0です。押し入れと靴箱の棚も全て無垢材でつくられており、部屋にはベニヤ板は1枚もありません。ただ、屋根にはベニヤ板が使われており、F4仕様だそうです。F4とはホルムアルデヒド放散濃度基準のことで、家を建てた1999年ではF4を満たす住宅メーカーはほとんどありませんでした。うちのログハウスはフィンランドからログ本体が、そしてカナダからフローリング板等の部材がコンテナでやって来ました。特に階段は階段の形で組み上げられたパーツになっていて、確かに組み立てキットという感じでした。

家は神戸市の住宅地に建っていますが、家の建築直前に住宅街に建築するための防火基準に合格したとのことでした。防火基準をクリアした



ななと薪ストーブ

ので、住宅地にも建てる事ができ  
るようになったとのことでした。最  
近の家は外壁にサイディングパネル  
を使用して、防火基準をクリアしま  
すが、ログの場合には表面が焼ける  
と炭化して、火に耐えるとのこと  
でした。また、木は100年経った頃が一  
番強く、湿気の管理をすれば、とて  
つもなく保つとのことでした。

うちの家には薪ストーブが付いて  
います。薪ストーブは米国ダッチウ  
エスト製です。当然、煙突もついて  
います。煙突からサンタさんは入っ  
て来ませんが、子供は友達から煙突  
があるとサンタさんが来ていいねと  
言われていたそうです。ふたが閉  
まっているものがストーブでオーブ  
ンなのが暖炉です。家の薪ストーブ  
は写真のようにふたを開けたままの

暖炉モードでも運転できます。しか  
し、暖炉モードでは開口部から空気  
を吸って、煙をそのまま吐き出すの  
で、熱効率が落ちます。ゴートとも  
のすごい勢いで燃焼が進むので、薪  
が大変です。薪はリアルな薪でもい  
いのですが、最近はこちらが簡単  
なブリケットを使っています。ブリ  
ケットは木材を加工した時に出る、  
木くずを固めたもので、取り扱いが  
簡単です。しかし薪に比べてお値段  
は少し高めです。薪の場合には燃や  
す木の種類により匂いが変わります。  
桜の木を燃やすといい香りがします。  
ダッチウエストの薪ストーブは再燃  
焼構造になっており、上部にコンバ  
スターがついています。コンバス  
ターは煙を還流させて、再燃焼しま  
す。再燃焼バルブを閉めて運転をす  
ると、煙が再燃焼するので、ストー  
ブがある程度の温度になると煙はほ  
んど出なくなります。しかし、暖  
炉モードで運転すると煙がもくもく  
上がります。うちは団地の中にある  
ので、煙が多いと問題ですので、再  
燃焼は助かります。再燃焼バルブを  
開け忘れて、薪を追加しようと、う  
かつにも前ドアをあけると一瞬で家

中が煙だらけになり大変です。だれ  
かが操作ミスをするので2階にいても  
直ぐに解ります。薪ストーブの匂い  
はかなり遠くまで届きます。うちの  
団地には薪ストーブを付けた家が何  
軒かあるので、シーズンにはあちこ  
ちから薪を燃やす臭いがします。

薪ストーブは英語ではウツドス  
トープと呼ばれるように薪を燃やし  
ます。当然、木を燃やしますのでエ  
コです。ただし、燃焼管理が面倒で  
す。燃焼管理は面倒ですが、そこが  
面白い所でもあります。まず、着火  
が一苦労です。スイッチ1つで着火  
とはいかないので、小さな木でやぐ  
らを組んだその上に割れたブリック  
を載せて、着火します。着火した後  
は薪かブリックを入れて運転しま  
すが、その後の燃焼管理が問題です。  
燃焼管理は薪の量と空気量で調節を  
しますが、空気を入れすぎると燃焼  
が早く進むので、薪が必要ですし、  
空気が少ないと当然、火が消えてし  
まいます。ストーブの温度が上がっ  
て空気が少ない状態になると、ス  
トープが息をします。ストーブの内  
部温度が高く、吸気量が制限された  
場合、ストーブが空気を吸うタイミ

ングが断続的になり、あたかも息を  
しているかようになります。内部  
が高温になった薪ストーブが空気を  
吸うと、空気が温められてストーブ  
内部の圧力が上がって、煙が吸気バ  
ルブから吐き出されます。そして、  
吸気バルブから吸い込んだ空気がま  
た吐き出されます。映画の「バック  
ドラフト」と同じ状態です。そこで、  
吸気バルブを少し開いて、ストーブ  
の呼吸が止まると丁度いい空気吸入  
状態です。

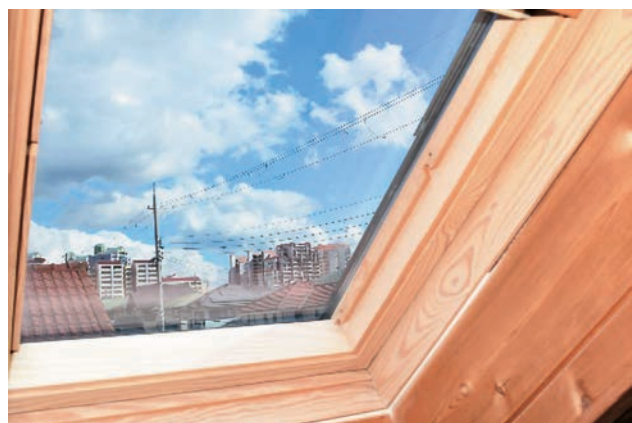
昔、米国で薪ストーブの煙が問題  
になり、再燃焼式ストーブができた  
そうで、再燃焼式薪ストーブの熱効  
率は90%以上だそうです。ダッチウ  
エストの代理店が北海道にあり、ガ  
スケットや耐火ポンドを取り寄せて  
自分でメンテナンスをしています。  
シーズンの終わりには、煙突掃除も  
必要です。

ログハウスの外壁はオイルステイ  
ンと呼ばれる塗料を塗っています、  
オイルステインは木にしみこむ塗料  
なので、木目が残りますし、木が呼  
吸できるため、湿度管理ができるそ  
うです。一方、ペンキは表面に膜を  
はるので、木目は見えませんが、木



が呼吸できないそうです。また、内側の床、天井と壁のフローリング板にはリボスを塗っています。リボスはドイツ製の天然オイル塗料でみかんの香りがします。虫は柑橘系の匂いは苦手だそうです。天然オイル塗料も木にしみこむ塗料なので、木目が残りますし、木が呼吸できるため、湿度管理ができます。床、壁、天井に貼られたフローリング板は年が経つに従い、日焼けして、節目の模様も変わってきて、見ていて飽きることはありません。フローリング板を貼った床も壁も張り替えの必要はなく、壁紙の様に毛羽立つこともなく安心して暮らすことができます。そして、床、壁、天井は年と共に色が変化していきますので、趣があります。困ったのは床材のふし目を掃除機で吸ってしまい、ふし穴が開いてしまったことです。壁も床と同じく厚さ19mmで幅が120mmの無垢材ですから、釘打ちは自由です。最初のころは、妻が電動ドライバードアチこちに棚を付けていたので、チューイーン、カッカカッカと電動ドライバの音がしていました。電動ドライバは家を建てた時に日曜大工用に

購入したもので、切れ端のフローリング板や部材で犬小屋やテレビ台を作りました。適当に作ったテレビ台ですが、フローリング板と同じ部材なので、部屋になじんでいます。ログハウスは雨漏りがすることがあります。ログハウスはログ組の部分に隙間があるので、風が強くと雨が吹き付けた場合の雨漏りは避けられません。しかし、夏は涼しく、冬も暖かく自然換気がいい感じでした。2018年9月4日の台風21号の時は雨風がひどくて、洗面所に洗面器やバケツを5、6個並べて雨漏りのしずくを受けました。順番にカンコンと音がして、マンガのようでした。台風21号以降に雨漏りはありません。しかし、洗面所側の壁は厚さ110mmのログ壁が2重になっているので、圧倒的な安心感です。台風21号の時は天窓も1つ壊れて大変でした。家には天窓が9個あり、洗面所からはカシオペア座が良く見えます。また、ベッドから星を見ることもできます。子供の部屋からは月も見えます。目が良くなるかなと思います、暫く寝ながら星を見ていましたが、効果は無いようです。家は1999年の



屋根裏部屋からの景色

9月から住んでおり、昨年、外装をリフォームしましたので、写真のようになり近代的になってしまいました。大屋根の一番外側の木材部分を破風鼻隠しと呼びますが、破風鼻隠しとデッキを鉄板巻きにしましたので、再塗装の心配が減りました。外壁も雨がよく当たる所については4、5年に1回再塗装する必要があります、大変でした。10年前の全再塗装時はBESSさんに足場を組んでもらい、子供と妻の父親にも手伝ってもらって塗装するのに1カ月かかりました。安全帯とヘルメットをして屋根

近くの2階のドーマー部分を塗るときは大変でした。ドーマーとは下り天井に対して付けた屋根窓です。先日目の2回目の全再塗装はペンキ屋さんに塗ってもらいました。屋根裏部屋を作業部屋にしており、作業機の両側には天窓があり、空がよく見えます。ログハウスの暮らしは楽しいものですので、ご興味のある方は参考にしてください。ただ、普通の住宅メーカーの家とは勝手が違いますので、細かいことは気にしないでください。

(明専会理事、神戸支部長)  
(流通科学大学 教授)

**原稿を募集します**

明専会報では、新たに「私の自慢話」のコーナーを設けました。特技自慢、趣味自慢、郷土自慢、会社自慢、ペット自慢…など、様々な自慢話を記事にてお送りください。皆さまからの楽しい記事をお待ちしております！

お問い合わせは、明専会事務局  
会報担当の松野まで

Mail: meisen@meisenka.or.jp  
TEL: 063-881-2346